

火山灰から 身を守るための対策

1 火山灰から身を守る

1 防塵マスクを着用するなど、 火山灰を吸い込まないようにしましょう。

火山灰はとても小さいので、空気と一緒に肺の奥まで入っていきます。そのため、せきが増えたり、息苦しくなったりします。鼻水やたんが増え鼻やのどが痛くなることもあります。ぜんそくや気管支炎の人は、発作のようなせきや、胸のしめつけ感、ぜーぜーとした呼吸で苦しむことがありますので、注意しましょう。心臓に重い病気がある人も注意しましょう。

2 火山灰が目に入ったら、手でこすらずに、水で流しましょう。 コンタクトレンズをはずして、眼鏡を使いましょう。

火山灰が目に入ると、ごろごろとした感じがしたり、目のかゆみ、痛み、充血がおこったりします。ねばねばした目やにや、なみだが出ることもあります。火山灰で目の表面に傷ができると、結膜炎になって、ひりひりしたり、まぶしく感じたりすることがあるので、気をつけましょう。

3 皮膚を守りましょう。

火山灰にふれると、皮膚が炎症をおこすことがあります。痛くなったり、はれたり、ひっかき傷からばい菌がはいったりすることがあるので、注意しましょう。

4 交通事故に気をつけましょう。

火山灰が降ると見通しが悪くなって、横断歩道などの表示が見えにくくなります。道路に火山灰が積もると滑りやすくなって、自転車や自動車のブレーキがききにくくなります。たくさん積もると運転できなくなります。



2 安全に降灰の除去作業を行うために

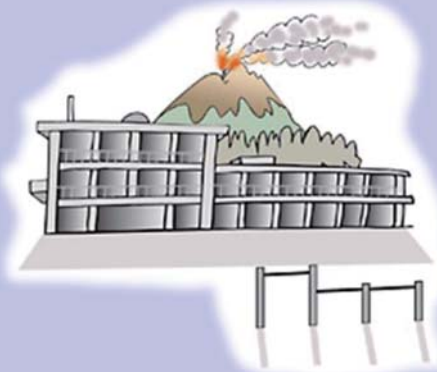
1 除去作業を行う時は、
しっかりとした防塵マスクを常に着用しましょう。
また、目への刺激を防ぐため、コンタクトレンズを
使わずにゴーグルまたはメガネを着用しましょう。

2 やむを得ず屋根の火山灰を除去するときには、
人が乗っても大丈夫かどうか
確かめてから始めましょう。

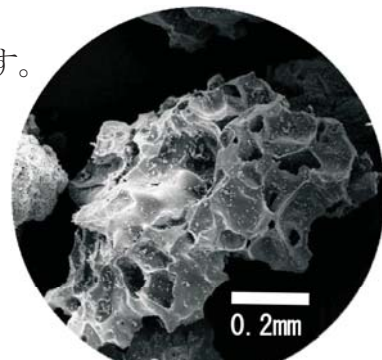
3 はしごや屋根の上は、
表面が火山灰でとても滑りやすくなっているので、
注意しましょう。

- ・ はしごはしっかりと固定しましょう。
- ・ 命綱とヘルメットを着用しましょう。
- ・ 作業は家族、となり近所にも声をかけて
2人以上で行いましょう。

4 火山灰は
雨どいや下水に詰まりやすいので、
流さないようにしましょう。



火山灰は、噴火の勢いで、溶岩が粉々に砕けたものです。
小さな石粒の集まりなので、一つ一つはとても固く、しかも、
とげとげしています。そのため、
目や肺に傷をつけることがあります。



火山灰の電子顕微鏡写真

お問い合わせ先

内閣府 政策統括官（防災担当）付

参事官（災害予防担当）付

参事官（地震・火山・大規模水害対策担当）付

千代田区霞が関1-2-2 TEL 03-5253-2111

<http://www.bousai.go.jp>

独立行政法人 防災科学技術研究所

「火山灰から身を守ろう」を参考に作成

<http://www.bosai.go.jp>